



ケアマネジャーとしての の想い

医療法人翠松会 居宅介護支援
事業所岩城クリニック
管理者 主任介護支援専門員

仁木 康統 さん

2000年に介護保険制度が施行され、新たな高齢者福祉の幕開けとなりました。

私は介護保険制度開始時期に高齢者福祉の仕事に携わることとなり、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、デイサービスなどの介護職員の経験を経て介護支援専門員の資格を取得しました。

介護支援専門員(ケアマネジャー)って何の仕事をするの?と思われる方も多いかも知れませんが、

当時、自分自身も「ケアマネジャーは介護保険サービスの調整をするものである。利用者様の心身機能が維持できるようにする。」などの考えでスタートしたことを覚えています。

その後、多くの方をご支援させていただき、1人ひとりとの関わりを深めていく中、人生に対する考えや想いを理解する大切さに気付くことができました。

ケアマネジャーの仕事の1つにアセスメント(対象者の方の心身等の状態把握や生活歴などの把握や評価する)があります。

ケアマネジャーになって間もない頃、「末期がんである。この家で最期を迎えたい。」との相談がありました。

私は、病状や家族の介護負担軽減に着目してサービス(往診医や訪問看護、訪問介護、訪問入浴、福祉用具など)を調整しました。

ご本人のご希望通りに自宅で最期を迎えることができましたが、何かに引っかけかりを覚えられました。

私はその方の人生というものを深く考えていなかったのではないかと、生活歴を確認するが、仕事や家庭に対する想い、趣味や人柄を理解しようとしていたのか、と自問自答を行いました。

ケアマネジャーは介護が必要となった時に初めて相談を受けます。なぜ、介護が必要となったのか、それ以前はどのような生活をされ今日に至ったのか、生活環境の分岐点となる介護保険サービス開始は重要なタイミングであると私は考えています。

現在、介護保険認定を申請して介護サービスを開始するといった利用が日常的に行われています。今一度、ここで考えなければならぬのではないのでしょうか。

介護保険制度の理念に「利用者の尊厳の維持や自立した生活を送れること。要介護状態にならないように予防に努める。また、要介護状態となった場合も能力の維持や向上に努める。」などがあります。

理念を振り返ると、今では介護保険制度の新規申請時期、ケアマネジャーが関わるタイミングはこれらの生活を考えるのにとっても重要なことであると私は捉えています。

今までの生活歴を振り返り、歩んできた今日、その中で介護が必要な現状に介護保険制度の理念を含め、まずはこれからの生活を利用者様、ご家族等と共に考えることが重要であります。

アセスメントとして利用者様の身体状態等を確認することも重要であります。その人の「暮らし」に焦点を当てて1人ひとりへの想いをくみ取ることができるようになることが、介護が必要になっても「尊厳の維持や自己決定」を持続することに繋がると思います。

私が考えるケアマネジャーとして大切にしなければならぬことは①支援をさせていただく方やご家族と共に歩むこと。②その方の人生を

理解しようとする。③将来的な見通しをイメージできること。④医療や介護、地域資源を含めて総合的に支援ができること。⑤柔軟かつ迅速・適切な対応ができること。⑤の5つの視点であります。

今まで高齢者福祉に携わった経験を生かし、1人でも多くの方が自分の生活を満足できるように支援を行い、今後は「介護が必要になつた」そのことを共に考え、介護状態を改善することや介護を受け入れること、利用者様の自立した生活ができるように支えることに尽力していきたいと考えています。

最後にケアマネジャーとしての職域は「暮らし」を軸に考えると防災対策(津波や洪水)や家族介護(高齢者世帯、ヤングケアラーなど)など多岐に渡ってきています。

行政・高齢者お世話センター、医療・介護・障害サービス関係者との連携を始め、地域の民生委員や自主防災会など、1人ひとりの暮らしをサポートするチームづくりのコーディネート機能という視点も重要であると考えています。

これからも研さんを重ね、よりよいケアマネジメントが提供できるように努めて参ります。

問い合わせ

人権・男女共同参画課

☎22-3094